

『依存』から『自立』へ…あなたの町『城南』です みんなで創ろう住みよい町を!!

平成28年10月1日発行  
(第12号)

発行元：上田城南地域協議会  
(事務局) 市民参加・協働推進課  
電話：75-2230

上田  
城南地域  
協議会  
だより

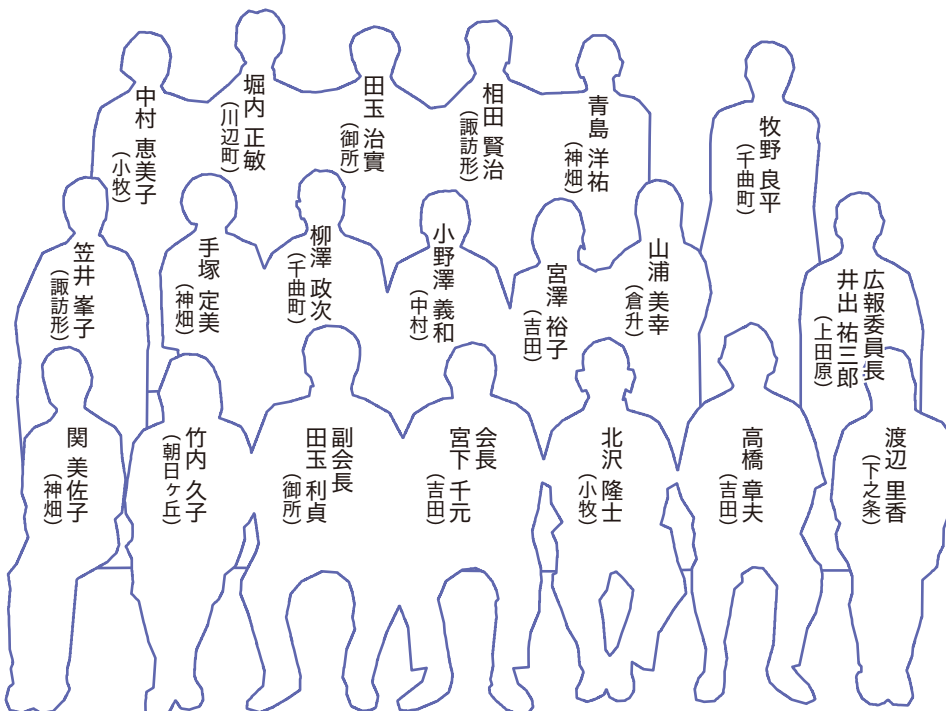
# 城南かわら版

## ◆上田城南地域協議会第6期がスタート

今年度から地域協議会第6期がスタートし、新体制となりましたので委員を紹介します。(任期は30年3月まで)



委員名と自治会を紹介します。



### 地域協議会 とは…

平成18年の合併を契機に、市内9つの公民館単位に設置された市の附属機関で、委員数20名、委員の任期は1期2年(6年まで)となっています。

地域の重要事項の決定に意見を述べる役割のほか、主体的な調査・研究による市への提言、また、わがまち魅力アップ応援事業の審査を担うなど、魅力ある住みよい地域づくりに向けて積極的に活動しています。

## ◆ 会長あいさつ

上田市が合併して10周年を迎えるとともに、地域住民のニーズに的確に対応しまちづくりを進めていく上田城南地域協議会も6期11年目に入りました。これまでに地域協議会として地域の課題等、市に対し意見書等14件提出し、数々の成果を上げてまいりました。

また、市の附属機関として地域活性化を推進するために城南地域における「わがまち魅力アップ応援事業」を61件採択し、地域の皆様の支援をしてまいりました。これも歴代の各委員の努力と地域の皆様の活力ある活動の賜物と深く感謝するとともに、新しく選出された6期目の委員20名も先輩委員に負けないよう城南地域のために努力していくつもりです。

城南地域は19自治会(約12,000世帯、29,500人)という上田市でも大きい地域であります。少子高齢化時代がますます顕著となり、地域の事は地域で連携をして解決していく必要がさらに増してきている時期に来ております。

本年3月に城南地域まちづくり会議が設立され、現在城下地区自治連、川辺・泉田地区自治連と上田城南地域協議会とで地域住民自治組織を立ち上げるため協議、検討をしております。

上田城南地域協議会では、地域の皆様のご協力を得て地域のために活動してまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



会長 宮下 千元

## ◆ 上田市第二次総合計画について

上田市では、合併からこれまでの成果を引き継ぐとともに、社会情勢の変化や新たな課題に対応したこれから歩むべきまちづくりの指針として、平成28年度を初年度とする10力年の「第二次上田市総合計画」を策定しました。

その中において、地域の特性を生かしながら、将来の発展に向けて地域が取り組むまちづくりの方向性を示す「**地域の特性と発展の方向性**」が地域協議会での検討を経て策定されました。

これを基に、市民や事業者、行政等が地域の特性を理解し、地域が目指すまちづくりの姿の共有を図り、それぞれの主体が役割を発揮してまちづくりに取り組んでいきます。

上田城南地域における「**地域の特性と発展の方向性**」に掲げる取組内容は次のとおりです。

### 上田城南地域の特性と発展の方向性

- まちづくり活動拠点の活用と住民が主体となった地域づくりの推進
- 「上田 道と川の駅」を活用した地域振興の推進
- 人や自然にやさしい交通機能の整備
- 高齢者や障がい者を支える地域包括ケアシステム構築と保健福祉環境の整備
- 地域で子どもを育てるまちづくり
- 自然との共生を目指す里山の再生と農地の保全
- 歴史的・地域的資源の保全と活用

## ◆ わがまち魅力アップ応援事業について

### 平成28年度 採択状況

上田城南地域管内では2回目募集までに5件の応募があり、5件全てが採択となっております。今年度実施中の地域づくり活動を紹介します。

団体名	事業内容	年目
上田原地域活性化協議会	・歴史講演会や史跡めぐりの実施 ・上田原古戦場まつりにおいて演武披露	1
諏訪形誌刊行委員会	・諏訪形誌刊行のため資料収集等	1
城南地域の自然・歴史的資源活用実行委員会	・各行事等で冊子を活用した講演会実施	2
中之条自治会	・中之条誌の出版に向けた資料収集等	3
吉田自治会 好きです吉田会	・八十八夜祭の開催 ・ふるさと講演会の実施等	4



▲上田原古戦場まつりで使用する甲冑づくりの様子(上田原地域活性化協議会)

### 成果報告 (平成27年度実施事業)

団体名：ふるさとづくり協議会  
事業名：竹やぶ整備と村おこし事業

#### 事業の目的・意義について

村内に群生している「竹」は、その処理の難しさから整備が思うように進まない状況が多く、景観を損ねているばかりか、道路や水路に覆いかぶさる等生活の障害になっている状況もみられます。このような状況の中、「竹やぶ」を「竹林」に、更に「筍畑」への整備を進め、採取されたタケノコは地元直売所で販売する他、食品加工し販売することにより、地域内での「持続可能な活動」として定着させていくことを目的としています。



◀整備作業の様子

#### 事業内容

#### 事業成果等

##### ① 竹やぶ整備



作業道の整備として、竹の繁茂により利用できなくなっている村道等の確保や道路に接していない竹やぶへの作業道及び竹林への進入路の整備をしました。伐採した竹や雑木は補助金にて購入したチップパーにて粉碎処理をしました。整備後の道は生活道や散策路(竹林の小径)として活用していきます。

##### ② 副産物の活用



伐採した竹は、手芸・工芸品、園芸用品、農業資材として活用し、粉碎したチップは竹林や遊歩道に敷きならしました。

##### ③ 活動記録のまとめと継承



活動の継承をするために年度毎の活動記録をまとめていきます。

## ◆ 住民自治組織の設立に向けて ～城南地域まちづくり会議～

現在の私たちの暮らしの中では、様々な利便性が向上する反面、人と人とのつながりが希薄化しています。また、少子高齢化に伴う人口減少の影響で、私たちにとって最も身近な自治組織である自治会においては、役員の担い手不足の進行など、住民共助の精神や地域内の連携力の低下などが懸念されます。

このような中で、上田市は「住民主体のまちづくり」や「地域の一体的なまちづくり」といった地域コミュニティとの協働による「地域内分権」を推進して、地域が一体となって地域課題の解決や地域の特性を生かしたまちづくりに取り組んできました。

この地域内分権をさらに推進するための、新たな「住民自治組織」の設立に向け、城南地域では今年3月に準備組織である「城南地域まちづくり会議」を設立しました。

城南地域に暮らす皆様が、誇りを持ちながら元気に暮らし続けるために、この城南地域まちづくり会議を未来の新たな仕組みづくりの第一歩にしましょう。

### 《城南さんぽ道》 ～諏訪形の巻～

▶ 舟窪古墳群標柱



▶ 第1号古墳



### 舟窪古墳群 (7世紀後半)

県道上田塩川線の諏訪形から須川へ向かう途中にある産業廃棄物中間処理場の右下の林道を約500～600m入った地点が「扇平」といい、ちょうど舟の底のような場所であることから地元の人たちは「舟窪」と呼んでいます。正式な地籍名は大字諏訪形小字西山といます。この場所の南向きの斜面に5基の古墳(円墳)がほぼ等高線(標高650～700)に沿って10～30mの間隔で並んで築かれています。

この場所に5基がまとまっていることは早くから注目されており大正12年(1923)に発刊された『小県郡史』では「縣立」という表現で3基と考えており、この場所に群立していることは特色のあることと記述されています。

心ない人たちによって石室の天井石は持ち去られ、そのため石室内は露呈し半壊または全壊して完全なもの1基もありません。

このような巨大の石をどのようにしてこの狭隘の山地に運び入れたのか、古代の人々の労苦がしのべれます。

(提供者：北沢伴康氏・諏訪形)

### ◆ あとがき ◆

城南かわら版第12号をお届けします。4月より第6期上田城南地域協議会がスタートしました。今期は既に発足、検討が始まっています「城南地域まちづくり会議」(城南地域にふさわしい「住民自治組織」設立のための準備組織)の検討状況などをお知らせいたします。

また、城南かわら版は年2回の発行を予定しており、わがまち魅力アップ応援事業の成果事例、活動状況などもお知らせいたします。

地域の課題、まちづくりに関するご意見、情報を事務局までお寄せ願います。 広報委員：井出祐三郎 田玉治寛 宮澤裕子